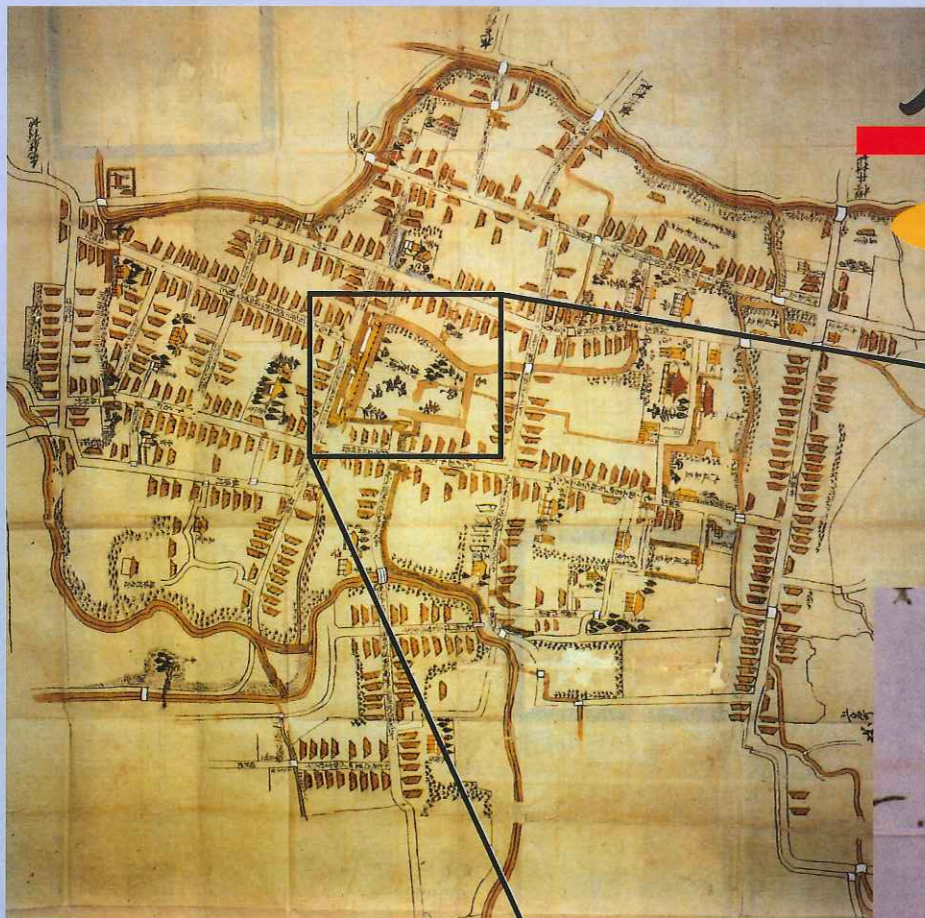


足下に眠る真壁陣屋跡



真壁町屋敷絵図（江戸時代後期）個人蔵

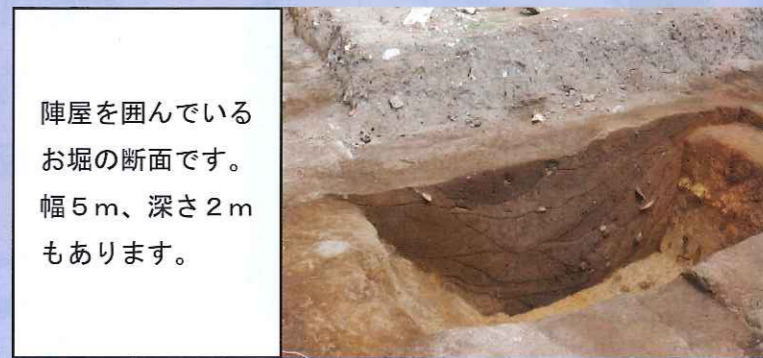
陣屋（じんや）とは

「陣屋（じんや）」とは江戸時代、藩（大名領）の政庁（藩庁）が置かれたところです。真壁陣屋は最初、真壁藩の藩庁として、のちに笠間藩による真壁支配の出張所として江戸時代の当地方の政治的中心地でした。

平成 21 年度に行った公民館等の建替えに先立つ調査ではこのあたりを発掘しました（現在の真壁伝承館です）。陣屋の裏庭にあたる部分と思われます。



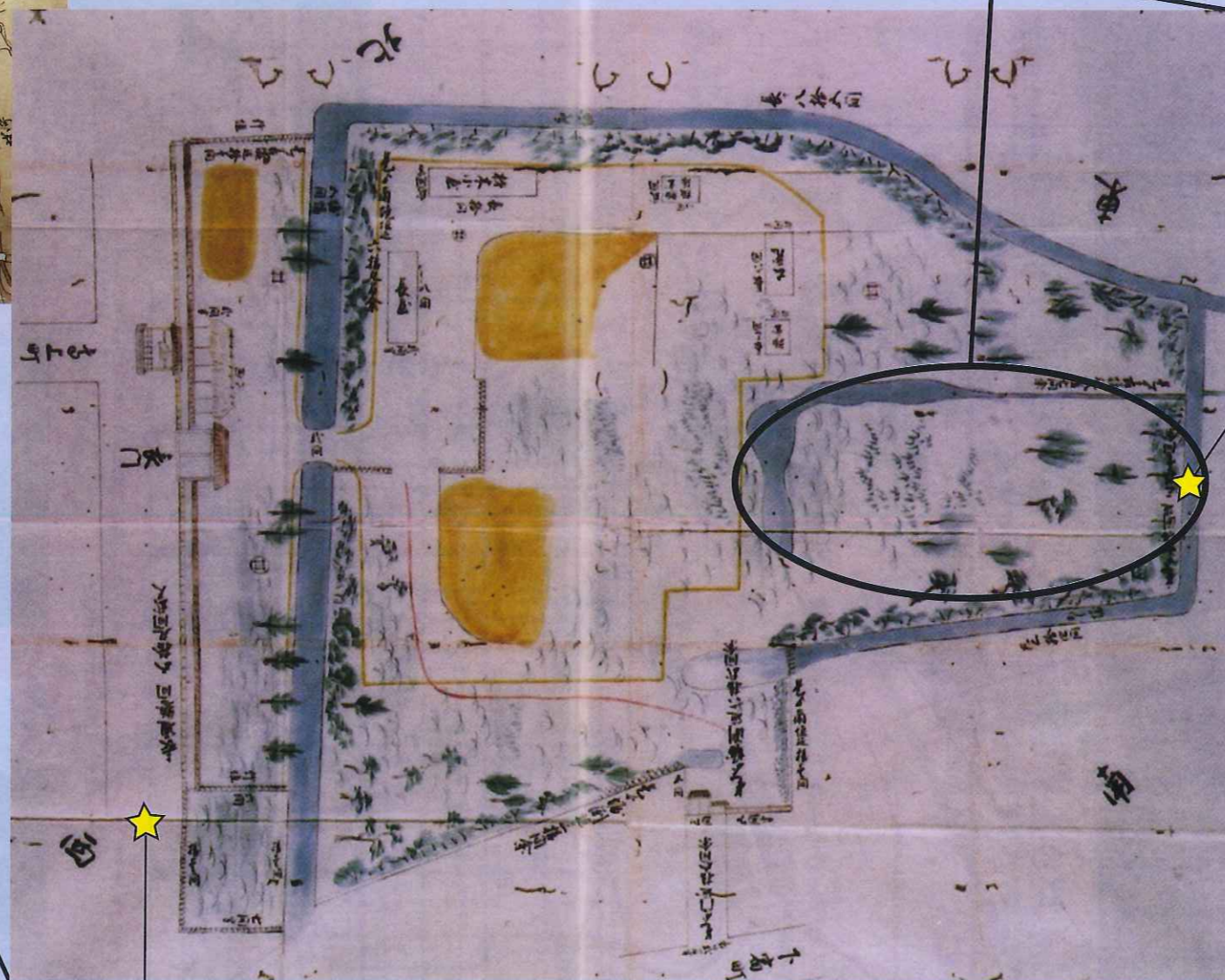
発掘調査中の風景。茶碗やお皿、火鉢など、たくさんの焼き物などが出土しています。



陣屋を囲んでいるお堀の断面です。幅 5 m、深さ 2 m もあります。

戦国時代から江戸時代へ

中世に真壁を治めていた真壁氏が慶長 7（1602）年に秋田へ移ったあと、江戸時代の真壁の領主は何度も交替しました。最初の数年は幕府直轄地、慶長 11（1606）年からは浅野氏の支配になり真壁藩が成立しますが、元和 8（1622）年に浅野長重が笠間に移封されると真壁領のうち桜川の東は笠間藩領、西側は幕府直轄地となって真壁藩はなくなり、以後は笠間藩の飛び地となります。



御陣屋絵図（江戸時代後期）個人蔵



陣屋跡から出土した大皿やすり鉢、茶碗などの焼き物。ほかにもたくさんのものが出土しました。



池底の泥の中から出土した江戸時代の竹かご。樽や柄杓なども見つかりました。

この道が現在の御陣屋前通りです。寛延 2 年（1749）の大火で焼失するまでは長さ 50 間（約 90m）に及ぶ長屋門がありました。この絵図にはありませんが、左上の地図にはその姿が描かれています。

真壁地域の歴代領主等		
	年代	藩主
幕府領	慶長 7 (1602) ~ 慶長 11 (1606) 年	-
真壁藩	慶長 11 (1606) ~ 元和 8 (1622) 年	浅野氏
笠間藩	元和 8 (1622) ~ 正保 2 (1645) 年	浅野氏
	正保 2 (1645) ~ 元禄 5 (1692) 年	井上氏
	元禄 5 (1692) ~ 元禄 15 (1702) 年	本庄氏
	元禄 15 (1702) ~ 延享 4 (1747) 年	井上氏
幕府領	延享 4 (1747) 年 ~ 安永 6 (1777) 年	牧野氏
幕府領	安永 6 (1777) ~ 天明 5 (1785) 年	-
笠間藩	天明 5 (1785) 年 ~ 明治 4 (1871) 年	牧野氏

そして現在へ

明治の世になり、陣屋はその機能を終えました。その後、この地には真壁小学校や、真壁町役場など数多くの建物が建ち、2009 年 までは真壁中央公民館や真壁中央公園、歴史民俗資料館などとして使用されてきました。そして現在、真壁伝承館という新たなまちの中心として生まれ変わろうとしています。

文化財に関するお問い合わせは

桜川市教育委員会文化財課

〒300-4495 桜川市真壁町飯塚 911 番地

Tel 0296-55-1111 (代) e-mail: bunkazai_s@city.sakuragawa.lg.jp